

～新しくなる 肱川橋とともに 大洲の町を再発見～

発行元
肱川橋橋梁架替工事連絡協議会



住所/大洲市柚木943
伊予大洲駅から車で10分、徒歩25分



木々に包まれた幽玄な佇まい
大洲藩主加藤家にもゆかりのある名刹
如法寺

室町時代、喜多郡の領主・宇都宮氏によって創立された如法寺。その後、一時廃寺となったが、寛文9年(1669)に大洲藩2代藩主・加藤泰興が禅の高僧である盤珪永琢を迎えて再興した臨済宗妙心寺派の寺院である。その当時、境内には仏殿、輪蔵、方丈、庫裏などの建造物があったが、数度の火災により仏殿以外の建物は焼失。その後、数棟が再建された。

建立当時の技法を用いて、当初の姿へ戻された仏殿をじっくりと見学したい。
如法寺には仏殿のほかにも貴重な文化財があるのでそれらもじっくりと押さえておきたい。中でも、愛媛県指定有形文化財である木造地藏菩薩立像や大洲市指定有形文化財の木造盤珪和尚坐像も安置されている。又、延宝5年に建立された観音堂も貴重な建造物として、創建当時の姿をとどめています。そして、玄関前庭では、愛媛県指定天然記念物である如法寺のツバキが毎年2月から4月にかけて開花するので、こちらも見逃せない。また、冒頭でも述べたように如法寺は大洲藩主加藤家にゆかりがあり、13代のうち、7藩主の墓所が寺から登った富士山内に点在しているので、散策がてら少し足を伸ばしてみたい。

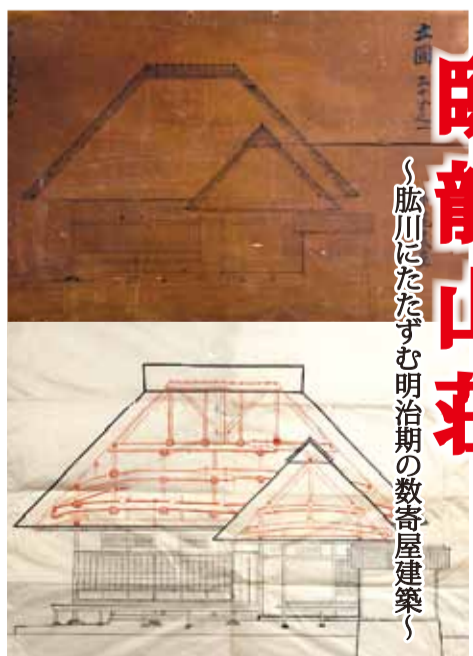


写真提供：大洲市教育委員会



大洲藩主加藤家墓所 ㊦2代泰興 ㊦9代泰候
写真提供：大洲市教育委員会

イベント&トピックス



臥龍山荘

「臥龍山荘」国重要文化財指定記念特別展
「肱川にたたずむ明治期の数寄屋建築」

平成 29年 1月 21日(土)～4月 16日(日)

開館時間：午前9時～午後5時
場 所：大洲市立博物館4階展示室
休 館 日：月曜日(祝日が重なる場合はその翌日)
入 館 料：無料
問い合わせ先
大洲市立博物館 大洲市中村 618-1 Tel.0893-24-4107

cafe neue(ノイエ)



野菜カレー (コーヒーor紅茶付) 850円



ジンジャーキャラットケーキ 400円



大洲の町並みに溶け込む大人のためのくつろぎの場所
「大洲まちの駅あさもや」の目の前にある「cafe neue」。店名の「neue」とはドイツ語で「新しい」という意味を持つ言葉。その名の通り、古き良き大洲の町並みに溶け込む新しいくつろぎの空間を提供している。
メニューは、地産地消を心がけ、地元の農家さんが育てた旬の野菜を取り入れた料理を提案。中でも好評なのが、季節の野菜たっぷりの「野菜カレー」。玄米・黒米・小豆を鉄鍋で炊いたご飯と一緒に味わう、カラダがよろこぶ一皿だ。食後には、ノイエの看板スイーツ「ジンジャーキャラットケーキ」を、懐かしい甘さがじんわり広がるこちらを、無農薬有機栽培のコーヒーや紅茶と一緒にどうぞ。
ショップスペースには、暮らしの雑貨やオーナーがフランスより買い付けたアンティークも展開している。

住所/大洲市大洲660-1
電話番号/0893-24-0212
営業時間/10:00～18:00
(10/15～2月末迄は17:00まで)
定休日/木曜
http://www.cafe-neue.com/

大洲グルメをたぎねて



肱川橋架替工事レポート⑦

大洲市民の皆様を支えられ新しく生まれ変わる肱川橋です。

大正2年の初代完成から100年以上、大洲市民の生活を支えてきた肱川橋。現在行われている5代目への架替えに関しては、地震時の耐震性の強化や、橋脚を5本から3本に減らすことで川の流れをスムーズにするという治水上の問題の解消など、様々な課題解決を目的としています。さらに、歩道を広げることで歩行者や自転車の方の通行もスムーズに。大洲市民のみなさんが安心して利用できる橋を目指して工事は進んでいます。

今回は、現在の肱川橋の解体作業を担当されている中央建設株式会社の現場代理人、松本龍三さんに、工事の進捗状況などお話を伺いました。



中央建設株式会社としては、平成28年10月末より工期に入りました。工事内容としては、肱川橋の一部区間の撤去です。まず、工事に必要な120トンの大型クレーンを導入するため、肱川を一部埋め立て作業場を確保。みなさんが通行するコンクリートの部分(床版)を適切な大きさにカットし、一つ一つクレーンで吊り上げて撤去していきます。こうすることでコンクリートの破片などを極力出ないようにし、肱川を汚さずに工事を進めることができます。もちろん橋には囲いをして、万が一にも破片などが落ちないように努めています。床版の撤去が完了したら、次はその下の橋桁を同じようにカットし、ブロックに分けて撤去します。床版と橋桁の撤去に関しては2月中旬に完了する予定で進めています。



次に橋脚ですが、こちらは地中に潜り込んでいる部分もすべて撤去するので、増水で川の中での工事が出来なくなる出水期(6月)までに終わらせたい。橋脚の撤去に際しては、まずその構造を確認しておく必要があるのですが、コアカッターでその内部をくり抜きました。



写真を見ていただくと分かるように、赤茶色のレンガの部分とコンクリートの部分に分かれています。この赤茶色のレンガ部分、実は大正時代に造られた初代の肱川橋なのです。初代の橋脚をコンクリートでカバーし、補強することで二代目、そして三代目と工事が繰り返されて、現在の四代目へと繋がってきたことが分かります。

今年の5月末までを予定している工事ですが、工期中は撤去した部分の撤出のために大型車の出入りがあります。ちょうど肱川橋北交差点のあたりが工事車両の出入り口となるため、皆様にご迷惑をおかけすることもあろうかと思えます。くれぐれも皆様の通行に支障のないよう、安全には十分に配慮し、進めてまいります。今後とも、ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



料苑たる井

肱川の恵みを活かした料理旅館としての伝統を守る

創業は大正初期という老舗料理旅館。初代は魚屋と旅館を兼ねていたという。その後、二代目が松山にて料理を習い、「たる井」は料理旅館業へと転換。提供するものは、鯉やうなぎ、カジカ、鮎など肱川の幸を取り入れた川魚料理。それは今も変わらず受け継がれている。三代目である現社長の樽井朗さんは大阪での修業を経て昭和40年代に帰郷。現在は特に料理に力を入れており、ランチはうなぎ定食や鮎ぞうすいなどの川魚料理に加え、松花堂弁当なども用意。宴会は川魚料理を中心に、予算に応じた会席料理でもてなし。和をベースに、洋食も織り交ぜた美しい料理の数々が宴席を華やかに演出。「なじみのお客様が多いので、毎回違うメニューをお出しするようにしています」との心配りも忘れない。また、結納や顔合わせなど慶事には祝い会席料理が喜ばれている。



ビジネスホテルの台頭や跡継ぎ問題などにより料理旅館が衰退する中、「たる井」では朗さんの二人の息子さんが松山の旅館・ホテルでの修業を経て帰郷。「今後は息子たちに表舞台は任せ、後ろから見守っていきたくと思っています。しかし生涯現役。板場には立ち続けますよ」と笑う朗さん。頼もしい二人と共に、料理旅館としての歴史はこれからも続いていく。



住所/大洲市若宮465-1
電話番号/0893-24-4585
営業時間/ランチ11:30~14:00
夜は予約制
定休日/無休

大洲、いいもの探訪

歴史の薫る大洲市。その町には、代々受け継がれている、活気のあるお店がたくさんあります。今回は、料苑たる井さんと富永松栄堂さんを訪ねました。

富永松栄堂 志保町店



住所/大洲市大洲444
電話番号/0893-24-3566
営業時間/8:00~17:30
定休日/水曜

不易流行の精神を忘れず時代に寄り添う「志ぐれ」を

大洲銘菓「志ぐれ」。その歴史は古く、今から約200年前、大洲藩江戸屋敷の秘伝菓子として、富永松栄堂の初代・八太郎によって世に伝承することとなったという。富永松栄堂の創業は明治8年。米粉、小豆、砂糖を使い、その素材な味わいがお菓子として親しまれている志ぐれは、以来150年近く、地元の名物菓子として愛されている。

現在は五代目の富永明佳さんが時代に合わせた志ぐれを追求。この30年、改良を加えながら生み出した「生志ぐれ」は、独自の炊き方と蒸し方が決め手だという。城下町の茶席菓子として食べられるものを追求した結果、歯切れの良い、しつとりとした上品な志ぐれにたどり着いた。「我々が創業時から大切にしているのは不易流行。変わらないものを守りつつも、勇気を持って変えるべきものもしっかり見極めながら商いをしていきたいと思っています」と富永さん。基本の志ぐれに加えて、有機栽培の宇治抹茶を使用した「抹茶志ぐれ」、県内産の無漂白栗が入った「栗志ぐれ」など四季を感じる品も提案。夢と楽しさと感動をお菓子に乗せて。そんな想いが込められた「志ぐれ」に、心のふる里を感じるのではないだろうか。

